

第7回 1・2丁目班 防災懇談会 報告書

日 時 : 令和2年2月9日(日) 14時～16時
会 場 : 高尾台町会会館
出席者 : 67名

輪嶋 町会副会長 挨拶 :

本日はお忙しい中防災懇談会に出席いただきありがとうございます。昨年10月20日に予定していましたが、第6回防災懇談会を順延してまいりましたが、今回1丁目の皆様のご厚意により合同で開催する運びとなりました。

本日は防災に関してより深く関心を持っていただき、皆様の防災意識向上、またスキルアップに役立つことと思っております。本日は楽しんでください。

中田 町会副会長より本日の日程について説明された。

防災クッキング 2:10～3:10

後片付け

ハザードマップの学習 3:40～3:50

まとめ 3:50～4:00

参加者は5テーブルに分かれて、それぞれのテーブルに ぼうさい高尾台 のメンバーが付いている。

A : 中田 B : 浜野 C : 大場 D : 片岡 E : 西村

1. 防災クッキング

講師・竹内陽子さん(ぼうさい高尾台・防災士)から内容、手順が説明された。

3丁目の竹内と申します。よろしくお願いします。たくさんの方に足を運んでもらって、嬉しく思います。本来であれば皆さんに調理体験をして頂こうと思ったのですが、1テーブル10～12名 小人2名を中心に調理補助しながらホワイトボードの手順に沿い、協力して進めてください。今日は3品、用意しています。

- ・アルファ米でできたおにぎり(ワカメとサケと五目ごはん)3種類
- ・味噌汁(切り干し大根などの乾燥野菜ととり野菜味噌)
- ・プリン(砂糖、卵、牛乳を湯煎で)

熱湯を注入するので注意。味噌汁とプリンをテーブルごとに作業分担。各テーブルの2人が、出来上がったものを人数分取りに行く。

各テーブルでおにぎりが出てきて、味噌汁とプリンがセットされた段階で試食タイムに入る。

2. ハザードマップの学習

講師・清水義博さん(ぼうさい高尾台・防災士)が「ハザードマップを確認しよう」をテーマに説明された。

水害、土砂災害から身を守るために、どこが危険でどういう経路で避難したらよいか、どんなタイミングでそういうことが起きるか、事前に分かっておくことが必要。危なかったらどこから情報が入るのか、お隣であったり、お向かいであったり、同じ状況に陥る可能性のあるご近所と日頃からコミュニケーションしていないと、一人、家で待って居ても情報は入って来ない。

市のホームページからハザードマップをダウンロードした物が、お手元の資料です。(スクリーンに投影) 金沢市洪水避難地図というのがあって、犀川、浅野川等は100年に一度、伏見川、高橋川等は50年に一度の大雨を想定して作ったハザードマップです。石川県では1000年に一度というものに変えています。金沢市に関しては相当に被害の大きい所から順次替えられている。

お手元の伏見台校下洪水避難地図、皆さんの自宅場所に印を付けて下さい。この辺のことにに関してどのくらいの危険があるか、知る必要があります。細かくて見にくいですが、真ん中が伏見台小学校です。私たちが居るのは、この辺になります。左側、西側に高橋川、右側に伏見川が走っています。左下がりの線が入っている所が土砂災害の恐れがある所。1丁目の4班と6班、9班に少しかかっている。右下がりの線が入っている所は、内水が溜まって洪水の危険性がある。2丁目1-1班、1丁目1-1班に可能性があります。1丁目7-2班には、直角に曲がる水路があって、そこに溜まる。3丁目1-2班にも少しかかっている。

1時間に何ミリ程度降れば危ないのか、このマップでは分かりません。天気予報を聞いていて、1時間に70ミリとなれば、必ずあります。平成14年7月に水のついた場所があって、気象庁のデータを調べたら10ミリ程度しか降っていない。雷雨で上流からの水が多かったか分からない。

自分たちの情報として、何ミリ降った時に危ないということを隣近所で共有していない限り、絶対に自分だけの判断で逃げようと思っても、なかなか逃げる気にならない。日頃から、そういうことを知る必要がある。

同じ時期に、富樫との校区境で伏見川が溢れて、こちらの方が安全かどうかを見るマップではない。こちらがどの程度危ないか知るマップで、自分の所に色がついていないから安全と判断するのは、極めて危険である。過去のデータで実際に水のついた所が6ヶ所あるので、その周りも危ないと見なければならぬ。この時、大徳校区では1~2mの水が来ている。だから伏見台は、より安全だという見方をしてはいけない。

加えて、どんな時に高尾台は逃げるか、皆さんと見ていかない限り身に着かない。一番困るのは、市全域で避難のタイミングが同時であるはずがない。地形が違う、住宅のあり方も違う。避難のタイミングは、一番危険な所がそうなった時に出る。高尾台はその時でないのに、どう判断するのか。金沢市では教えてくれない。ハザードマップにも書いてありません。自分なりに調べる必要がある。情報としては、防災気象情報と河川の水位情報と私たちがとるべき行動と行動を促す住民と警戒レベル。今この状況ですと、事細かに伝わってきません。

高尾台にも水がついた過去があって、比較的危ないとは思いますが、800ミリも降った時にどうなるか、まだ自分らは経験していないし、いきなり避難指示までいくような状態であればどうかという事態は誰も教えてくれない。自分らで町の中を歩いてみたり、皆と一緒に考えたり、過去のデータを調べたり、或いは気象庁の方、市のその部門の方に来ていただいて、しっかり教えていただいとおかなければ、いざという時には遅しということになってしまう。

知らないことがいっぱいある。避難のタイミングがあることは分かるが、情報は何時、誰が、どのように出すのでしょうか。市のみならず、町会でも状況が異なるのに、状況に応じて自分らで判断する必要がある。過去のデータで水位がどれだけになったら氾濫危険水位であると情報を出すか、河川によって異なる。高尾台では伏見川は90cmで山が近く、竹やぶが多い。竹やぶは保水性が少なく、土砂崩れも起きやすい。水も流れやすい。だから90cmで来る。一挙に来る可能性がある川と理解しておかないと、よその川程安全でないような事態が起こる可能性がある。町会の中で防災の情報を共有し合う仕組みを作らない限り危ないかなと思う。いろんな手段でいろんな情報が飛んでいるが、自分から求め、「自らの命は自分で守る」でないかと思う。

アンケート調査をしたが、回収率は低下した。幸いなことに高尾台の防災士は去年9名増え、18名になった。防災士になって家族や周りの人を助ける気持ちがあればだれでも防災士になれる。しかも講習会に係る費用は、今のところ金沢市が補助金という形で出してくれる。市に申請をして、補助を受けて、18名防災士になりました。大きな町会なので30名以上居ないと守れないと考えている。市は全体で60人分の予算を組んでいる。そこに外れても町会に毎年10人分の予算を取ってある。ぜひ挑戦して頂きたい。

3. DVD視聴

「災害を生き抜く力！子どもたちに語り継ぐ」

自分の命は自分で守るということで、神戸淡路大震災から25年間の思いを経験者が子どもたちに語る。

4. まとめ

○感想

- ・森本富樫断層の情報がないか……町会で3、4年前に金沢大学の先生に実地で教えてもらった。国の見直して富樫断層の危険度が上がった。

- ・いざという時の災害対策、一人ではできない。落下物、倒壊による被害を防ぐ手立てをする。
- ・若いお母さん達と一緒にお子さんが参加してくださり場を和ましてくれた。参加者が増え、防災への興味や意識が高まる企画を準備したい。

清水さん：2月27日に県防災士会副理事の大槻さんにアドバイザーになっていただいて、長期目標、短期目標を作って、活かしていきたい。

町会長：アツアツのものが15分でできることを実感していただけた。実際に断層の資料があるが、私たちには難しい。専門家に話を聞く勉強会や基本的には皆さんと一緒に班長連絡会の後に10分程の時間をいただいて、いろんな情報を伝えていくことが来年度の活動目標になっています。

防災士講習の補助金は地区別に割り当てられている。高尾台町会への割り当てが無くなっても町会で予算組はしているので、多くの人に受けていただきたい。